

第1回セミナー満員御礼につき第2回開催決定!

自主返還を未然に防ぐ最大の秘訣とは?

すべての病院職員が知っておきたい、施設基準適時調査への対応方法

第2回 施設基準管理セミナー

■日時: 2017年6月23日(金) 13:00~16:30 (受付 12:30~)

■場所: 神戸市産業振興センター ハーバーホール(兵庫県神戸市中央区東川崎町1-8-4 3F)

■参加費: 会員 8,000円 / 一般 10,000円 (ともに税込)

※会員料金対象(お申込者全員): ①『医事業務』のご購読者、②『施設基準適時調査マニュアル』をご予約された方

定価3000円

昨年12月、平成27年度における保険医療機関等の指導・監査等の実施状況について、厚生労働省から適時調査は2,562件(対前年度比215件増)、適時調査による返還分は約76億3千万円(対前年度比約11億1千万円増)という結果が公表されました。このような中で、いま適時調査の通知が来た医療機関、そろそろ通知が来るかもしれない医療機関にとっては、一刻も早く適時調査に関する情報を入手し、院内で対応していかねばなりません。すでに適時調査が済んだ医療機関においても、継続して施設基準の管理を行う必要があります。

講師陣



講演1 審査の視点「適時調査の仕組みと留意事項 ~間違えやすい事例も踏まえて~」

・施設基準とは ・適時調査と監査、指導の違い ・適時調査の実施方法と注意点

竹田和行氏(元厚生局審査課長) 社会医療法人輝城会 医療・介護経営研究所 所長

講演2 現場の視点「適時調査への医事現場における対応の実例 ~発生しやすいトラブルとは?~」

・文書指摘事項と改善報告の実例 ・指示事項、口頭指示への対応 ・個別指導における文書指摘への対応

鈴木達也氏(全国病院経営管理学会 医事業務委員会 正幹事) 北野台病院 医事課長

講演3 管理の視点「院内連携を生かす施設基準届出後の管理 ~病院全体で取り組むべきポイント~」

・施設基準届出項目の解釈と運用実例 ・各部門と適時調査関連事例 ・平成28年度より施設基準届出不要項目の管理と検証

長面川さより氏(全国医事研究会 理事) 株式会社ウオーミングハーツ 代表取締役

PROGRAM

病院事務職はもちろん、病院長、事務長、看護部長をはじめ、各診療技術部門(検査、放射線、薬剤、リハビリ、栄養など)にも役立つ講演資料付!

- 参加要領
- ①下記の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXまたはメールでお申し込みください(ウェブサイトの専用フォームからお申し込みできます)。
 - ②参加申込書が届き次第、「参加費請求書」をFAXでお送りしますので、参加費を指定の銀行口座にお振り込みください。
 - ③参加費のご入金を確認後、受講票一式をお送りいたします。お振込後、5日以上経過しても受講票が届かない場合には編集部までご連絡ください。
 - ④参加予定者が参加できない場合、代理出席をお願いします。キャンセルの場合は開催6日前から当日まで参加費の全額をお支払いいただけます。
 - ⑤2名以上でお申し込みの場合は、代表者を「参加者氏名①」にご記入ください。

参加申込書 お申し込みは FAX⇒0120-75-3641 ◆ E-mail⇒edt-hs@sanro.co.jp ◆ WEBサイト⇒http://www.e-sanro.net/

病院・施設名			E-mail (代表者)	
住所	〒	—	都道府県	
TEL			FAX	
参加者氏名①	ふりがな	役職	部署	施設基準適時調査マニュアル <input type="checkbox"/> 予約済 予約された方はチェックをお願いします ※ご予約はホームページより http://www.e-sanro.net/inyo/
参加者氏名②	ふりがな	役職	部署	
参加者氏名③	ふりがな	役職	部署	

※プライバシーポリシーにより個人情報をお取り扱いいたします。個人情報保護方針については、産労総合研究所ホームページをご覧ください(http://www.e-sanro.net/)。

主催 株式会社 産労総合研究所 『医事業務』編集部 E-mail: edt-hs@sanro.co.jp
〒112-0011 東京都文京区千石 4-17-10 産労文京ビル TEL: 03-5319-3607 FAX: 03-5319-3617

医事業務 (禁転載) 平成6年6月30日 第三編創刊以来 2017年5月1日発行(毎月1日・15日発行) 料金は1年52,800円(購読料金48,889円・消費税3,911円)
発行所 産労総合研究所 〒112-0011 東京都文京区千石4-17-10 産労文京ビル 電話(03)5319-3619・3656(編集部) (03)5319-3607(編集部) 編集人 田中利男 発行人 平盛之

2017年5月1日号 第516号 産労総合研究所

医事業務

Bi-weekly Medical Services

医事業務 第24巻516号
2017年5月1日発行
(毎月1日・15日発行)
平成6年6月30日
第3種郵便物認可

2017 5.1
NO.516

Up-to-date Medical Services Information

特集
そこが知りたい!
医事最新情報

産労総合研究所
附属 医療経営情報研究所

適時調査の対応ポイントを詳しく解説！

施設基準 適時調査マニュアル

全病院で必須の1冊！

“実際の施設基準適時調査で聞かれる項目”
が分かる！
業界初の解説書

貴院の適時調査は準備万端ですか？

2015年度の適時調査は対前年比で実施件数が215件増、返還額は約11億1千万円増となっており、今後はさらに対象となる医療機関が増えていくことが予想されます。また2016年4月から、施設基準適時調査は全国統一の基準となりました。本書では、実際に厚生局などで約400カ所の病院立ち入りを行った経験と実績を生かし、適時調査で困らないためのノウハウを紹介します。
この1冊があれば、適時調査の対策も万全です！



■著者■
竹田和行
(元厚生局審査課長)

- ◎厚生局から指示される準備資料が分かる
- ◎調査時のチェックポイントを具体的にピックアップ
- ◎事前の確認が返還金の最大の予防策
- ◎院長から事務職まで必携の完全バイブル
- ◎逆引きできる索引機能
- ◎院内で活用できるExcelチェックシート付き

2017年5月発刊！

B5判 約1,000頁 価格 28,000円 (本体価格、税別)

●内容についての問い合わせ先

株産労総合研究所 「医事業務」編集部
電話：03-5319-3607 FAX：03-5319-3617 E-mail：edt-hs@sanro.co.jp



●購入先

株産労総合研究所 出版部 経営書院
電話：03-5319-3620 FAX：0120-73-3641

※詳細・ホームページからのご購入はこちら

➡ <http://www.e-sanro.net/iryo/>

NO.516 2017年5月1日号

C O N T E N T S

医事業務

新企画

4 point of view

病院活性化につなげる現場の力
～人に使われ使われる立場から～



Vol.1 病院事務職員の育成

社会医療法人厚生会 木沢記念病院
病院長補佐・事務長 佐合茂樹

特集

そこが知りたい！ 医事最新情報

～さまざまな角度から捉えた
4つの取り組み事例集～

12 事例1 新技術の導入と活用

湘南厚木病院 山下尚子

17 事例2 患者サービスの向上と業務効率化

昭和大学病院 藤 恵里子

21 事例3 説明・同意書の記入不備と調査

上尾中央総合病院 高橋勅光

25 事例4 診療記録の監査による効果

島根県立中央病院 福田成美

30 現場の改善ヒントにつながる
患者目線の医療最前線 (No.2)
T.T. たなか

34 虎の巻伝授！ 請求もれ発見伝 (新連載)
TMG本部 営業部
医事業務指導室 室長 佐藤達哉

37 千葉県民間病院協会
医事業務勉強会 (No.272)
千葉県民間病院協会
医事研究部長 三浦 昇

42 数字に強くなるう！ (No.2)
高崎健康福祉大学 健康福祉学部
医療情報学科 准教授 木村憲洋

44 医療現場で役立つ法律Q&A
(No.32)
早稲田リーガルcommons法律事務所
弁護士 佐藤 亮

47 医事業務ビギナーズ (No.19)
洲野辺総合病院
医事課課長 藤本武志

50 病院の経営戦略で使える
DPC シミュレーション (No.6)
メディカル・データ・ビジョン株式会社
事業開発部 企画第三ユニット長
黒川大輔

54 医事管理 ON THE ROAD (No.8)
北野台病院 医事課長 鈴木達也

56 在宅医療と診療報酬 (No.16)
鷺沼診療所 事務長 宇井恵美

58 コムルからの通信 (No.168)
認定 NPO 法人
ささえあい医療人権センター COML

60 教えて！ ニャン長先生 (No.47)
大阪警察病院
企画調整課 小前貴志/角谷 慶

62 匿名医事課長の医事課あるある (No.9)

66 次号予告・編集後記

入院している人たちに向けて、フォトスライドショーをしよう。写真を通して一緒に旅行をしてみたい。そのような取り組みがきっかけになって、がんばって治療し退院したら旅をして Encounter（エンカウンター：遭遇）したいという気持ちの支えに、また、それが難しい人たちには旅での Encounter 疑似体験を提供したいと思いました。

私の創作活動は、テーマは旅。得られる価値として、Encounter です。実は遠くへ旅に行かなくても、「日常での旅」は回りにたくさんあります。気づくかどうかは個人次第ですが、Encounter の価値に気づくことで地球が素敵なものになっていくでしょう。そして、写真の貢献できる価値は、もっともっとあるのだと強く思っています。

病院との巡り合わせ

誰でも写真や動画が簡単に携帯（スマホ）で撮れるようになりました。いまやソーシャルメディアでは画像が氾濫し、写真はますます身近なものになってきていると思います。でも、だからこそ、写真という静画にしっかり向き合うがゆえに見えてくるもの、深い気づきやメッセージは普遍的なものであり、また写真というリアルな作品に向き合い触れることのできる「場」

は多くの生活者にとっては少ないのではないのでしょうか。実は工夫すればもっともっと日常生活の中に開拓できると思っています。

たまたま地方の医療機関の空間に身を置いていたときに、ふと、ここに写真がやってきてもいいんじゃないか？ と考えました。

すると岡山県の川崎医科大学附属病院副院長の猶本良夫医師がこの考えに賛同され、医療関係者とのつながりをつくっていただきました。さっそく川崎医科大学附属病院のライブラリーなどに写真集（拙著“ENCOUNTERS”）寄贈が実現しました。そして、今回、地域連携活動に旗を振っておられる国立病院機構岡山市立金川病院長の大森信彦先生がプロデューサーを務めていただき、同院と岡山協立病院（高橋淳病院長）、そして心地ダイニング、「奈々伊」に自ら出向きスライドショーを実施いたしました。誌面の都合上、本稿では2つの病院における事例を紹介します。

旅で“Encounters（遭遇）”

フォトスライドショー@病院

(1) 岡山協立病院（医療 coop） 高橋病院長と緩和ケア病棟 20161208

患者さん、医師、看護師、事務などさまざまな方が

現場の改善ヒントにつながる 患者目線の医療最前線

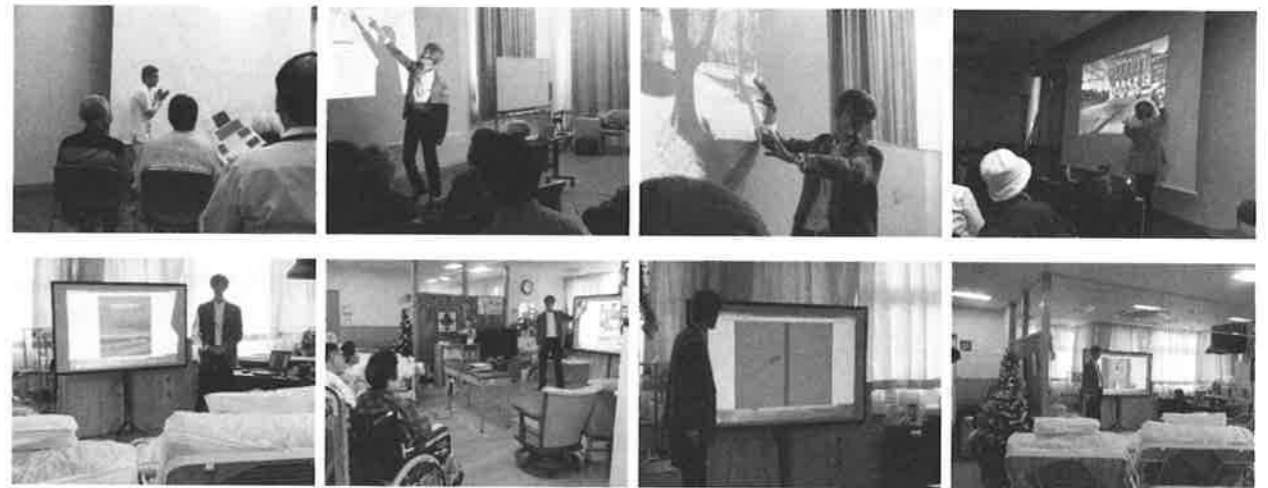
VOL.
2

写真がやってきた～！ 日常生活の中に。
写真の力をもっともっと社会に生かそう。
もっともっと場をつくって
写真自ら行動しよう

T.T. たなか

集まりました。ミャンマーからの研修医も参加しています。「世界を皆さんと一緒に写真を通じて旅をしましょう」という時間でした。

トランプを支持したアメリカの地方の人たちのやさしい表情に Encounter したスナップショット、フロリダの大湿地の動物たちとの Encounter やその南部の歴史的な背景やフォスターの歌を聴きながら込められている悲哀、また伊豆やアジアの日常生活でのちょっとしたサプライズシーンなどを見てもらい、最後に協立病院のすぐ近くでの Encounter もお見せし



(2) 国立病院機構岡山市立金川病院（大森信彦院長）
岡山市御津金川地区 20161209

スライドショーでは、患者さん・医師・看護師のほか、地元市民の方々、ボランティアの御津高校生、御津高校写真部員たちも参加してくれ会場に入りきれないほどの盛況となり、院長や他の職員は廊下で立ち見となってしまいました。ここ数年の病院内イベントでこれだけ集まったのは初めてのことでした。

会場の人々と一緒に写真で旅をして Encounter しようということで、直近の写真集 Encounters の写真から、ほとんどの人が行ったことがないフロリダやタスマニア、静岡、神奈川エリアなど 100 点余りを鑑賞しました。

冒頭ではシークレットフォトとして、病院関係者には内緒で私が先乗りして撮影した御津金川地区の普段見慣れているが意外なシーンや角度からのサプライズ

で皆さんびっくり、かつ喜んでいただきました。

このような写真を撮った人々のその時の気持ちや、驚きや発見を会場皆でシェアでき、嬉しそうな顔が目立ったのが印象的でした。

岡山の地元ピアニストの吉行純子さんが写真集に触発されて、作曲・演奏された音楽も一同で聴き、写真からの発見や、また創造の広がりとその面白さなども興味をもっていただきました。視覚と聴覚、フルに刺激され、右脳と左脳が活発だった時間でした。

フォトを紹介しました。自分たちの町や村が再発見されることの嬉しい表情が印象的でした。

また、話題のアメリカ新大統領にからめ、トランプ氏が勝利したアメリカ大草原の人口の小さいネブラスカ州の自然や人々、町を見せて一緒に旅をしました。

そして、写真集にインスパイアされて作曲をしていた地元のピアニスト吉行純子さんの演奏を、写真を見ながら鑑賞し耳からの刺激も提供しました。

普段は写真を意識していない人、スマホで写真をよく撮る人といった一般の人たちが興味をもって一生懸命聞いてくれて目を輝かせていたのが印象的でした。最後には、新たに旅してみたいところとして、タスマニアや伊豆を挙手した人が多かったです。



一緒に写真を楽しみましょう

今、医療機関も人口減少・高齢者増・効率化のプレッシャー・地域連携など課題が山積みです。地域の中でどういう中心的な役割を果たしていくのか、それも深刻です。同時に、入院患者さんのために、さまざまな催しも各病院でトライされています。でも「フォトスライドショー」を催しとして行うことは、自分の回りでは聞いたことはありませんでした。

写真はスマホやさまざまなディスプレイで簡単に見られる時代です。でも、あえてリアルな写真と、さらにフォトグラファー自らが生活者の側にやってくる機会や場自体を創造することのダイナミズムを改めて感じました。一般生活者たちと一緒に、インタラクティブ

に写真を見ての気持ちや感動を共有できるのです。サッカーや映画のように。

私はそれを医療空間で、また地方において行ってみました。その可能性を再認識いたしました。医療空間はその一端だと思っています。そういった空間に写真自らが、写真家本人が意思をもって出て行きたいと思えます。

私自身、機会があればこれからいろいろな地方での医療機関や教育機関、それ以外でも、また外国でも出張って行ってやってみようと思っています。フォトグラファーの方々と私もと言う方は、ぜひチャレンジを。また、ぜひ来てほしいというさまざまな地域の方々の声をお待ちしています。M

プロデューサーを務めていただいた国立病院機構岡山市立金川病院長大森氏より

From: 大森信彦
Date: Sat, 10 Dec 2016 09:37:35 +0900
To: tanaka
Subject: Re: ありがとうございます！
TTTさま

こちらこそ大変お世話になりました。今回の企画を終えて、今までとは違う、じわーとした喜びといいますが、新しい水平線と言いますが、楽しい気分の心地よい疲れを感じております。本当にありがとうございました。金川病院の講演会の仕込みをあんなに入念にいただき、集まった聴衆も身を乗り出し（男性が多かったのが印象的でしたし、学生もいて、何か、場が生き生きしていたように思いました）、子供のように目をキラキラさせていました。心が震えました。やはり、ぼくは、個人としての成功よりも、地域の才能を引き出すような事業のプロデュースに打ち込む仕事にかかわっていきたくて、あらためて思った次第です。貴殿のおかげ。こんな巡り合わせをくださった神様に感謝しています！ 貴殿の挑戦の一端にお付き合いできれば、きっとさらなる新水平が見えてくるとわくわくします。素晴らしい2日間をありがとうございました！

国立病院機構岡山市立金川病院
院長 大森 信彦

2016年12月10日 9:24
大森先生
吉行さま

今回は大変お世話になりました。すごい出来事を体験させていただき、これからの元気をたくさんいただきました。何といっても、病院長でありながらの大森プロデューサーと、8人大家族の吉行純子コンポーザー・アレンジャーと新しい挑戦ができたことです。私の一生の宝物になりました。まだまだ挑戦していきますので今後ともぜひお付き合いさせていただければ幸いです。

取り急ぎの御礼まで。
T.T.Tanaka

プロフィール

T.T. たなか (兵庫県芦屋市生まれ)

相模湾を臨むエリアに居住。子供の時から親の影響でフィルムカメラで写真を撮るのがきっかけ。アメリカフロリダ州居住経験、ミャンマー、パキスタン、インド、ロシア、カザフスタン等世界各国へ仕事やプライベートを通じての訪問多数。幅広いコミュニケーションに関する業務を続ける一方、写真によって素敵な出会いを切り取る世界での表現に挑戦し続けてきた。そのユニークな視点から生まれた作品にはコンクール、月刊誌での受賞したものも数多い。



活動

■ホームページ (写真を毎月更新しておりますので、ぜひご覧くださいませ)

<https://encountersweb.com/>

■出版、展示などの活動の他、医療機関やコミュニティで、写真と世界の旅にちなむスライドショーを展開しております。スライドショーは写真を通して世界の日常生活の素晴らしさをその地域ならではの体験をまじえて、ご年配の方々、バリバリの社会人にも、生徒の皆さんや先生方にも、とっつきやすく、楽しくお伝えするものです。

■医療機関向け活動についてご依頼等お問い合わせ

入院されている方々は旅行ができません。でも、この小書籍を手にするだけで、入院している人たちと一緒に旅行できれば嬉しいと思いました。早く回復して旅行したいというキモチへの少しでも支えになれば、また、なかなか退院できない方々には、医療機関内の空間でこの書籍で頭の中で旅して「体験」していただければ…。さらに付き添ってられる身近な方々や、そして医療機関で働く人たちも同じかと思えます。私の写真集は、名所旧跡ではなく、世界の日常を、人々との、いきものたちとのエンカウンター (遭遇) を描いています。地球上にあふれている日常の命に触れる「旅行」をご提供できれば幸せに思えます。もし、医療機関の方々に、それならばぜひ入院されている方々の手に触れるところに置いてみたいと思われるようでしたら、下記まで希望の旨と、送付先医療機関名と宛先をご連絡くださいませ。1機関につき1冊を田中より寄贈させていただいております。また、上記の活動に触れてくださるよう、スライドショーのカタチで入院の方々や職員の方々にトークをまじえながらお見せすることも受け付けておりますので、ご希望がございましたらご連絡・ご相談いただければ嬉しいです。

T.T. たなか

■寄贈先医療機関 - 2016 12/1 現在

- | | | |
|-----------------|------------------|----------------|
| ・岡山市公立系医療センター | ・旧公社系総合病院東京都区内 | ・千葉県 国立大学 教養学部 |
| ・岡山市公立系病院 | ・国立リハビリセンター | ・埼玉県北足立郡総合病院 |
| ・岡山市K総合病院 | ・東京都区内私立医大系病院 | ・北海道国立系付属病院 |
| ・福井県鯖江市私立病院 | ・東京都江戸川区スポーツ整形外科 | ・東京都私立大医学部付属病院 |
| ・東京都新宿区初台私立病院 | ・宮崎県国立大学付属病院 | ・千葉県佐倉市総合病院 |
| ・東京都大田区田園調布私立病院 | ・大阪市 旧厚生年金系病院 | |
| ・東京都江戸川区社会福祉法人 | ・東京都文京区 国立病院付属病院 | |

問い合わせメール送信先: tanakauf@xug.biglobe.ne.jp